

学校応援プロジェクト 2021 年度

中央大学附属高等学校 進路学習・キャンパス見学プロジェクト

2021年5月1日（土）、青空の下、多摩キャンパスにて中央大学附属高等学校進路学習・キャンパス見学プロジェクトを実施しました。今回のプロジェクトは、中央大学附属高校1年生が多摩キャンパスを訪れることで、大学進学への具体的なイメージを持ち、自らの進路を考えるきっかけ・動機づけとすることを目的とするものです。

緊急事態宣言が発令される中での実施となりましたが、一度に集合する人数を減らすプログラム内容とし、教室に集まって説明を聞く際には収容定員の50%未満とするなど、感染防止のための措置を徹底して予定通り行うこととなりました。

プロジェクト当日、附属高校の生徒達は、2クラスずつ・時間差をつけて、多摩キャンパス・Forest Gateway Chuoに集合です。Forest Gateway Chuoは、2021年4月から運用を開始したばかりの最も新しい建物です。木をふんだんに使用した、外光がふりそそぐ建物内。生徒たちは「きれい！」「こんなところに住みたい！」等、興味津々な様子で教室に集まってきます。モノレール駅から教室までの誘導は、附属高校の先生方にもご協力をいただきました。



最初はプロジェクトメンバーによる大学紹介からスタートです。高校から入学した生徒のクラスと、中学からの内部進学者のクラスとでは説明内容を分けることにしました。高校から入学した生徒のクラスの説明では、2月の進路学習プロジェクトで好評だった学部紹介もふんだんに取り入れています。「「国際」ってつく学部や学科がいくつかあるんですが、学ぶ内容によってこんな違いがあります」というような説明もあり、生徒だけではなく担任の先生も真剣に聞いてくださっていました。

約30分の大学紹介の次は、班ごとに分かれてキャンパス内に設置されたポイントを回るキャンパスウォークラリーです。1クラスを6つの班に分け、さらにその班をAとBの2つのグループとして、広大な多摩キャンパスの中に置かれた7つのチェックポイントをまわります。チェックポイントのうち4か所では中央大学にちなんだクイズが出題され、正解するともらえるキーワードを集めて戻ってくる、70分間のウォークラリーです。しかも、班によって出発するポイントもバラバラ…地図を手に、出発ポイントまでプロジェクトメンバーに引率してもらってよいよスタートです！

キャンパス内では、地図を片手にきよきよ、チェックポイントを見つけて駆け出す生徒の姿があちこちに見られました。各チェックポイントでは各班の到着時刻を記録・1クラス全ての班・グループが通過するとLINEで共有したり、わかりにくい場所にあるチェックポイントは担当の学生が近くで誘導したりと、生徒の安全最優先でウォークラリーを進めていきます。

チェックポイントは、70分の時間内で無理なく回り切れること、大学生活で実際に学生達がよく使う身近な施設を網羅すること等を念頭に、プロジェクトメンバーが実際に歩いてセレクト。入学後間もない1年生のプロジ



エクトメンバーには、リハーサルを兼ねて事前に見学と説明を行った上で参加してもらいました。

チェックポイントをすべてまわってそれぞれのグループがゴールの教室に戻って終了チェックを受けると、最後のミッションが。A・B グループそれぞれがクイズの答えと引き換えにもらってきたキーワードを並べると、大学紹介の中でもふれた中央大学にちなんだ事柄についての「言葉」ができあがる仕掛けです。

「行動する知性」「学食が魅力的」そして「英吉利法律学校」。特に「英吉利法律学校」は難しかったようで、この言葉にあたってしまった(?) 班は、どのクラスでも大苦戦でした。最後に、簡単なホームルームを行い、解散です。この日は午後から天候が急変し、雨が心配されましたが、どうにか最終のクラスまでお天気もってくれました。

終了後のアンケートには、「疲れたけど楽しかった!」「大学広すぎてびっくり」「学部のことが詳しくわかってよかった」等の感想が。全体としての満足度も 98.9%で、高校生たちにとって有意義な 1 日となったことが伺える結果となりました。



今回の企画のスタートは 2021 年 2 月。中央大学附属中学校進路学習プロジェクトの終了後、附属高校のご担当の先生と、キャリア教育プロジェクトの中心メンバー、プロジェクト・コーディネーターとの間で打ち合わせを行いました。「高校入学から間もないモチベーションが高い時期に、実際に大学キャンパスを見学させたい」「キャンパス内を案内してもらって説明を聞く受動的な機会ではなく、キャンパス内を生徒が自由にまわることはできないか」等のリクエストをいただき、プロジェクト内での検討がはじまりました。

が…今回、対象となる生徒は 9 クラス・約 400 名。プロジェクトを運営するためのメンバーは集められるのか? 感染症対策の観点から人数を分散して実施するには? さらには、生徒が主体的に・楽しんで参加できる仕掛けはどうする? 中学校から内部進学した生徒は進路学習で中大のことを知っているから、高校から入学した生徒とは別の説明があるよね? など、実施規模もクリアすべき課題の点でも学校応援プロジェクト過去最大級のプロジェクトとなりました。

当日の運営メンバーは、学校応援プロジェクトの全てのプロジェクトからメンバー募集を行ったほか、4 月に中央大学に入学したばかりの 1 年生にも呼び掛けを行い、32 名が参加。この数もこれまでで最多です。

企画・実施の中心メンバーたちは、オンラインミーティングや時には対面やハイブリッドのリハーサルを重ねながら、企画の練り上げ、タイムスケジュールの作成、個々のメンバーへの指示、必要な備品の準備等を行ってきました。感染予防と生徒の主体的なコミットとを両立させるため、学年全体を 5 分割して時差で集合・プログラム実施としたこともあり、午後の最終グループが終了する頃にはみんな体力も限界…それでも、アンケート結果でとても多くの生徒達が満足してくれ、感謝のコメントを寄せてくれたことがわかったと拍手が起きました。



今回のプロジェクトで、附属高校のみなさんの中央大学へのイメージが具体的なものになり、今後の学部選び・進路選択に役立ててくれたらうれしいです。そして、大学入学後はぜひ学校応援プロジェクトへ! お待ちしています!